

充実した学級経営の工夫 ～聴く力をつけることを通して～

菅天間小学校教諭 稲福景子

目 次

I テーマ設定の理由 …………… 1	VI 授業実践……………17
II 研究目標 …………… 1	1 主題名
III 研究仮説 …………… 1	2 ねらい
IV 研究の全体構想図 …………… 2	3 主題設定の理由
V 研究内容 …………… 3	4 これまでの経過
1 学級経営について …………… 3	5 本時の指導
(1) 学級とは	
(2) 学級経営の意義	VII 結果と考察……………20
(3) 充実した学級とは	1 授業研究会の記録より
(4) 学級経営の内容	2 授業記録より
(5) 学級経営の評価	3 子どもの感想より
	4 その後の指導
2 心に関すること…………… 6	
(1) 心とは	VIII 研究の成果と今後の課題 ……23
(2) 道徳性とは	1 研究の成果
(3) 意欲とは	2 今後の課題
(4) 児童理解	3 終わりに
(5) 聴く力と心の関係	
3 語り聞かせについて…………… 8	<主な引用文献・参考文献> ……24
(1) 語り聞かせの意義	<資料> 語り聞かせの年間計画 ……25
(2) 語り聞かせとは	
(3) 語り聞かせとの出会い	
(4) 語り聞かせの時間設定	
4 これまでの語り聞かせの実践・10	
(1) 実践事例	
(2) 語り聞かせの効果	
(3) これまでの課題	
(4) 行動が持続しないわけ	
(5) 今後の改善点	

充実した学級経営の工夫

～聴く力をつけることを通して～

菅天間小学校教諭 稲橋景子

I テーマ設定の理由

科学技術の発達、情報化の進展など、現代社会は大きく変化している。その中に育つ今の子どもたちは、次々と新しくなる機器や通信システムを使いこなす柔軟性を持っているように見うけられる。機械とのかかわりが増えた反面、人とのかかわりを苦手とする子どもが増えているようにも感じられる。これには核家族化や少子化など、子どもをとりまく環境の変化が影響していると考えられる。いじめや不登校などは教育の現場で見られるその例といえるだろう。

このような背景を踏まえて「心の教育」の充実と「確かな学力」の向上を二本柱として教育改革が行われ、平成14年度から新学習指導要領が完全実施となった。

私がこれまでに受け持った学級においても、

- 正しい姿勢で座ってられない。
- 話を最後まで聞けない。正確に聞けない。
- やる気が持続しない。
- 言われたことはやるが、自分から進んで行動することがあまりできない。
- 自分の考えが通らないとすぐに怒る、ふてくされる。
- 決まった友達としか遊べない。

など気になる子どもの状態が見られる。

学級でのこのような状態を改善するため、担任は励ましたり、ほめたり、叱ったりしながら継続的に指導をしている。その結果、学習中の姿勢や聞く態度、友達への接し方などが徐々に改善されてはくる。しかし、担任の目を離れるとまた元の状態に戻り、がっかりすることも少

なくない。子ども自らが自分を見つめ、自分を正せるようにすることが大切であるが、その難しさを感じている。

このように児童の内面からの変容を促すにはどうすればよいのかと試行錯誤する中、「語り聞かせ」が一つの有効な手段ではないかと考えるようになった。

教師の「語り聞かせ」を通して、「聴く力」を育てると気づきのチャンスとなり、児童が自らを見つめ、よりよい自分を目指すきっかけとなるのではないかと考えている。

聴く力は人間力の養成であるというが、生活の基盤、学習の基盤、そして人間関係の基盤となるものだと考える。

そこで、語り聞かせを通して聴く力を培うことで、学級内の人間関係と雰囲気がよくなり、学級経営が充実したものになると考える。学級経営の充実はまた、一人一人のよりよい変容につながると考え、本テーマを設定した。

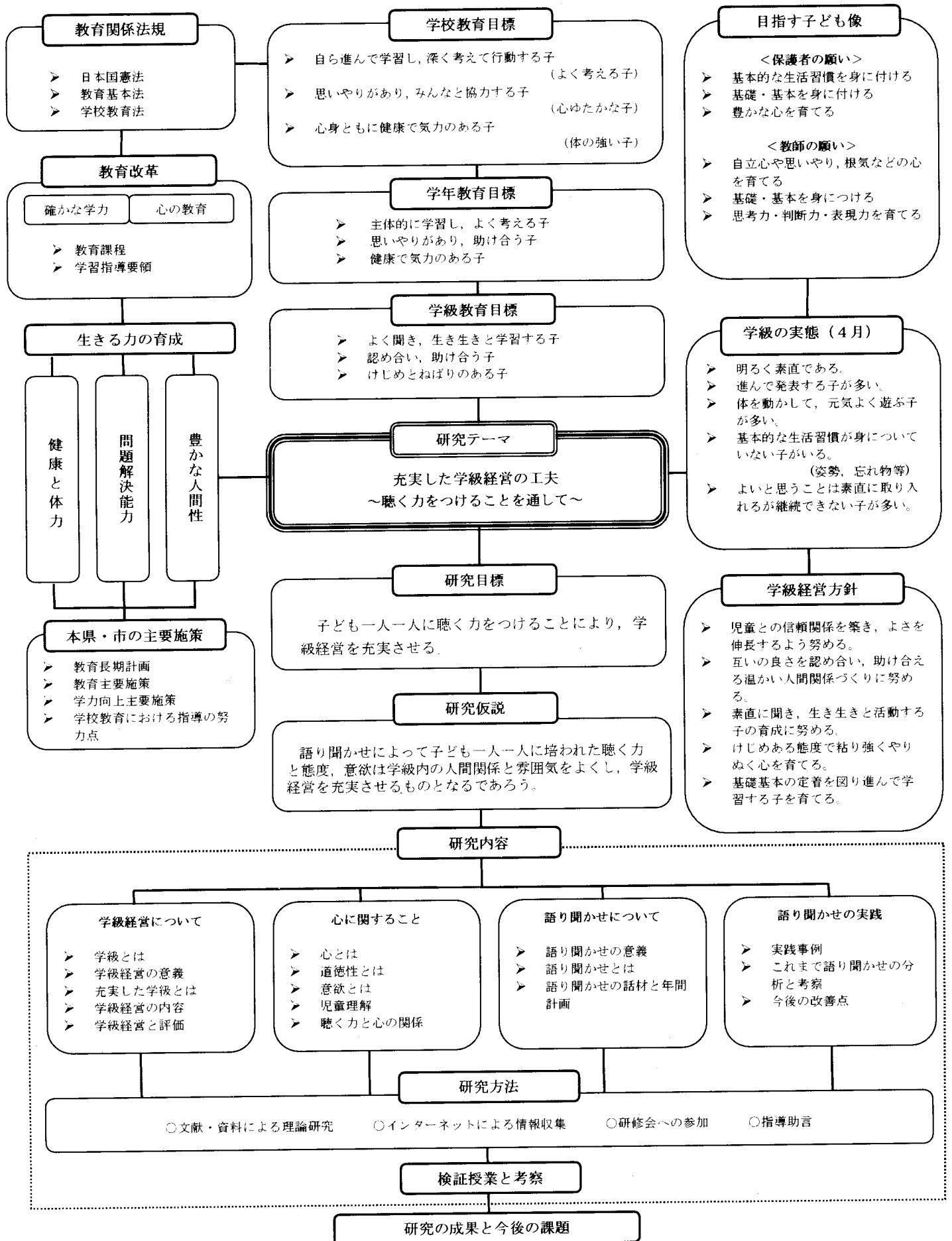
II 研究目標

子ども一人一人に聴く力をつけることにより、学級経営を充実させる。

III 研究仮説

語り聞かせによって子ども一人一人に培われた聴く力と態度、意欲は学級内の人間関係と雰囲気をよくし、学級経営を充実させるものとなるであろう。

IV 研究の全体構想図



V 研究内容

1 学級経営について

(1) 学級とは

磯田一雄⁽¹⁾によると学級とは、「学校において子どもたちの学習や生活指導が行われるための基礎的な単位集団」であるという。また高場昭次⁽²⁾は「子ども達は学級で学び、そこで遊び、共に生活し合って知恵と徳を磨き合っていく、重大な教育の場」であるとしている。

つまり、学級で出会えた仲間と、かかわり合いながら学ぶ場であるといえる。

(2) 学級経営の意義

永岡順⁽³⁾は「学級経営とは学級を基本の組織として展開される教育活動の計画・実施およびその結果の評価の過程とこれに関する学級担任のすべての職務活動を総称する」と示している。

学級は担任の人間性の照り返しだと言われる。担任の経営姿勢、指導技術によって大きく左右される。学級集団を単なる管理組織ではなく、一人一人の個性を生かし、学び合える学級集団として伸ばしていくという意義を持つ。そのために大切なことは教科と生活との両側面から人間形成を図ることである。学級経営の上に授業は成り立ち、また、授業によって学級は作られる。

(3) 充実した学級とは

充実した学級では、子どもたちは友達とかわり合いながら、また友達の行動を見て多くを学ぶことができる。しかし学級にまとまりがなく、安心して身をおける状態でない場合、子どもたちは不満や不安を感じ、時として心に大きな傷を受けることもある。また、いくら楽しくても、まじめにやることが馬鹿にされるような学級では、一人一人がよりよい自分を目指して努力することは難しい。

充実した学級であることは、一人一人の成長の前提となる。また一人一人の成長が、充実した学級をつくることになる。

充実した学級であるためには次の三つの働

きが大切であると考えられる。

① 温かい人間関係が確立している

一人一人が、教師や友人から受容的・援助的に対応され、自然に生活することができる学級である。このような人間関係の中では子どもたちが自分の本音や気づいたことを伝え合い、聴き合うことができ、学級集団の一員として安心して過ごすことができる。

② 学び合う人間関係が確立している

自分の考えを言うことだけに執着したり、逆に傍観者となったりすることなく、それぞれが考えを出し合ったり、聴き合ったりしながら、吟味する中で、自分の考えを修正したり、付け加えたりしながら、問いを追求していくような学び合いのできる人間関係をいう。

③ 一定のルール（規範）が確立している

教師が子どもを縛ろうとする管理的な規則ではなく、集団生活を送る上でのマナーとしてのルールである。学級集団は子どもの生活の中で大きな割合を占める社会である。楽しければ何でもよしではなく、学級内のルールや規範を守ることにより、集団生活をスムーズにすることがわかってくるであろう。

<児童の考える充実した学級>

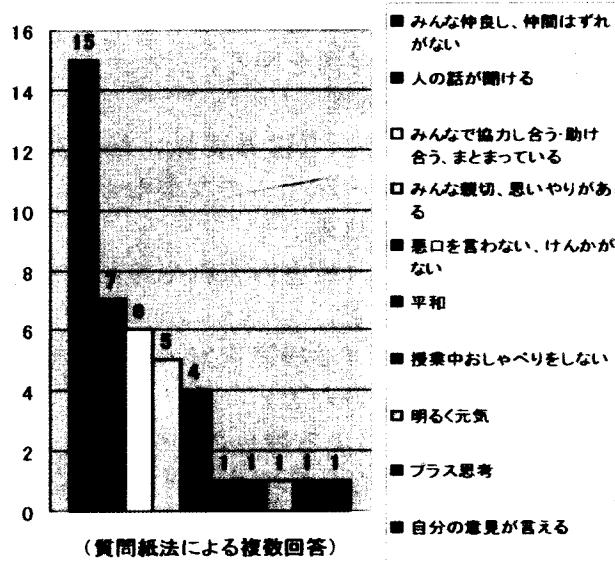


図1 調査①：児童の考える充実した学級

※多くの子どもが「みんな仲よし」「助け合う」「みんな親切」「けんかがない」など人間関係のよさを学級の充実と捉えているようである。

(1) 横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版 1990。

(2) 高場昭次『新学級経営』ぎょうせい 1987。

(3) 永岡順編『学級・学年経営』ぎょうせい 1995。

(4) 学級経営の内容

織井道雄⁽⁴⁾は学級経営の内容として、「①学級集団としてのまとまり(学級づくり)、②教室等の環境構成、③学習指導、④生活指導、⑤家庭との連絡、⑥学級事務、⑦学年経営・学校経営のとの連動、⑧児童や教師による個性的な特色の加味など」を提示している。それらの中から、いくつか以下に詳しく書き出してみる。

① 児童理解

一人一人の子どもの理解に努め、信頼関係を築くと共によさを見つけ、伸長するよう努める。

② 人間関係づくり

教師と子ども及び子ども相互の好ましい人間関係づくりに努める。

③ 教室の環境整備

児童の作品を生かした掲示物の工夫、整理整頓や清掃の行き届いた快適な教室づくりをする。

④ 学習態度の育成

学習中の姿勢、聴く態度、進んで学習する態度を育成する。

⑤ 望ましい生活習慣の育成

基本的な生活習慣や進んで働く態度などの育成を通し、自立心を養うことを目指す。

⑥ 保護者との連絡

家庭訪問・授業参観・保護者会・学級便りなどを通し、連携を図る。

⑦ 学級事務の処理

ア) 公簿の記入 (指導要録・健康診断票・出席簿・転出入の文書など)

イ) 報告文書の処理

ウ) 備品管理 (教室内の机や時計・テレビ・教具など)

エ) 各種事務 (学級経営案・週案・通知表・学級会計など)

⑧ 児童や教師による特色の加味

児童の興味関心、担任の人柄を生かした経営、学級ならではの取り組みを継続するなどの工夫が考えられる。

(5) 学級経営の評価

天笠茂⁽⁵⁾によると、「学級経営の評価は、学級が学習及び生活の場として機能しているかを判定するものである。」と示されている。目標を設定した以上その目標が達成されたかどうかを確かめることが必要となる。つまり学級の目標は裏返せば評価の観点となる。

留意すべきことは、改善の手立てという目的を持って行うということである。目標達成の程度が不十分であれば、原因を分析し、改善を図るために役立てる。そのためには年度末の評価のみならず、実践の過程で随時行うことが望ましい。また、学級経営の評価は担任の自己評価が原則となる。そこで、主観的になりやすいという短所を補うため、専科など他教師の協力を得たり、子どもからの評価を重視したりすることが必要となる。

(4) 織井道雄『小学校学級担任必携』文教書院 1993。

(5) 下村哲夫/天笠茂/成田國英編著『学級経営の基礎・基本』ぎょうせい 1994。

表 1 <学級経営評価票> (◎・○・△・×)

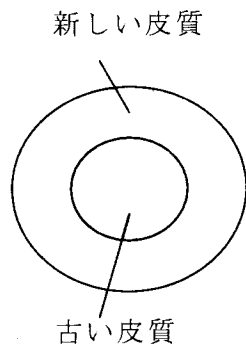
内容	評価項目	評価の視点	評価
学級目標	学級目標の設定	目標は児童の実態に即したものであったか。	
	学級目標の具現化	目標を達成するための方策，計画は適切であったか。	
児童理解	学力と知能	一人一人の学力の把握ができたか。	
	家庭環境，健康状況	一人一人の家庭環境や健康状況を把握していたか。	
	性格，交友関係	一人一人の長所や短所，交友関係を把握していたか。	
教科指導	聴く力・表現する力の育成	一人一人に発表の機会を与え，聴き合う場をつくったか。	
	わかる授業の工夫	教材研究や教材教具の準備が事前に行われたか。	
		学習形態，学習方法の工夫，改善に努めたか。	
基礎基本の定着	基礎基本の定着に努めたか。		
道徳教育	計画性・適時性	道徳の年間指導計画に基づいた指導，学級の実態に即した指導ができたか。	
	道徳の時間	児童が意欲的に考えることのできる授業の工夫をしたか。	
	全教育活動を通した取り組み	道徳の時間をはじめとし，各教科，特別活動，総合的な学習の時間等を通して道徳教育の充実が図られたか。	
	語り聞かせ	計画的に語り聞かせをしたか。	
特別活動	学級の一員としての自覚と責任感の育成	係活動，当番活動，話し合い活動に自発的・協力的に取り組んでいるか。	
	自主的態度の育成	学級の諸問題を自発的に解決しようとしているか。	
	学校行事への取り組み	学校行事に積極的に参加しているか。	
学習総合	問題解決学習への取り組み方	体験的学習を取り入れ，意欲を高めるよう努めたか。	
		問題解決学習が進められたか。	
保健安全	健康観察	一人一人の健康状態の把握に努めたか。	
	安全指導	安全指導（運動，遊び，登下校等）は適切だったか。	
	心身の健康	養護教諭との連携を図り，健康に関する指導に努めたか。	
生活指導	集団生活のきまり	集団生活に必要な決まりが守られているか。	
	人間関係づくり	児童相互の好ましい人間関係づくりに努めているか。	
	児童との触れ合い	積極的に児童との触れ合いを求めたか。	
	遊び	学校内外の児童の遊びについて理解しているか。	
教室環境	教室内の美化	教室内は常に整理整頓され，清潔であったか。	
	学習環境の整備	学習意欲を喚起する掲示物等の工夫をしているか。	
	児童の作品	児童の作品は計画的に展示されていたか。	
家庭との連携	連絡内容・方法	学級便りの発行，必要に応じた手紙や電話連絡，家庭訪問等は適切であったか。	
	家庭との協力	家庭は進んで学級に協力してくれたか。	
	保護者会	保護者会には積極的に参加し，発言してくれたか。	

2 心に関すること

(1) 心とは

高橋宏⁽⁶⁾や稲川三郎⁽⁷⁾によると「心」と深い関係を持っているのは大脳であるという。大脳には古い皮質と新しい皮質がある。古い皮質（大脳辺縁系）は人間がたくましく生きていくために大切な本能や欲求・情動をつかさどっている部分である。新しい皮質は知性や理性の働きをする一方、古い皮質を支配しており、本能的な行動を抑制する部分である。「遊びたい、楽をしたい、怠けたい、休みたい、働きたくない」など思いや行動は古い皮質の働きによるものであり、それを反省させ、よりよいものに目を向けさせ、自覚させ、努力させ、考えさせ、
耐え忍ばせるのは新しい皮質の働きである。人間はつねに欲望と理性、欲情と知性とのたたかいに揺れ動きながら生きている。このような葛藤を通して、よりより自分へと成長していくのである。

<大脳の断面図>



(2) 道徳性とは

『学習指導要領道徳編』には「子どもたちに必要とされる『生きる力』の核となる豊かな人間性とは、

- ① 美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性
- ② 正義感や公正さを重んじる心
- ③ 生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観
- ④ 他人を思いやる心や社会貢献の精神
- ⑤ 自立心、自己抑制力、責任感
- ⑥ 他者との共生や異質なものへの寛容などの感性や心、道徳的価値であるにとらえられる。このような力を育てるのが、心の教育であり、道徳教育なのである。」と示されている。

(6) 高橋宏『「心」とは何か』講談社 1987。

(7) 稲川三郎『自己教育力を育てる指導の実際』黎明書房 1985。

つまり、心を育てることと道徳性を育てることは切り離して考えることができないといえる。

道徳性とは人間が人間として持っている人間らしいよさのことである。人間が人間としてよく生き、生活するための文化的・社会的活動の基盤となる。その中心は人間尊重の精神である。道徳性は一般的に道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度などによって構成されている。これらの道徳性の諸様相はそれぞれが独立した特性ではなく、相互に深く関連しながら一つの全体を構成しているものである。したがって、これらの諸様相が全体として密接な関連を持つよう指導することが大切となる。

(3) 意欲とは

『学校教育辞典』⁽⁸⁾には、意欲とは「積極的に物事を成し遂げようとする意志、態度」であり、「更にその背後にあつてその事柄を推し進めるように作用する原動力」であると示されている。意欲は言い換えるとやる気と捉えることができる。他人からの指示や命令で物事に取り組むのと自ら意欲をもって取り組むのでは、努力の仕方に違いが出ることが多い。

① 内からの意欲

人は何かを知りたい、できるようになりたいと思うとき、意欲が沸いてくる。それを実現しようと積極的に努力するのである。このような内からの意欲による行動は長続きし、本人にとって楽しいものである。また「叱られるから」、「あの子に負けたくないから」など外からの刺激よっても意欲は起こるが、その刺激がなくなると意欲も減退してしまうことが多い。しかし、意欲は持とうと思って簡単に持てるものではなく、意欲の起こり方も人それぞれである。何を知りたいか、何ができるようになりたいかは人によって異なり、また興味・関心は本人の中でも流動的であることが多い。

(8) 東洋/奥田真丈/河野重男編『学校教育辞典』教育出版 1988。

そこで担任に必要となるのは、一人一人の興味・関心を探り、子どもの意欲を喚起する工夫や表面に見えてこない意欲に気づくよう努めることである。

調査によると学級の子どもたちは次のようにやる気を起こしているようである。

表2 調査②：子どもはどんな時にやる気を出し、どんな時にやる気をなくすか

やる気が出るのは どんな時か	やる気をなくすのは どんな時か
<ul style="list-style-type: none"> ・面白い時 ・ほめられた時 ・興味を持った時 ・自分がこれをやるんだと決めた時 ・うれしい時 ・意味がわかった時 ・調子がいい時 ・できなかったものができた時 ・自分の好きな科目の時 ・できそうだと思った時 ・今から自分が人のために何かできるという時 ・ゲームをクリアできた時 	<ul style="list-style-type: none"> ・面白くない時 ・叱られた時 ・ねむたい時 ・いらいらしている時 ・文句を言われた時 ・うまくできなかった ・時 ・テレビを見ている時 ・勉強がわからない時 ・手伝おうとしているのに断られた時 ・まわりだけ楽しくなっている時 ・つまらないことをする時 ・ゲームでセーブが消えた時

表3 調査③：子どもがやる気を出すために工夫していること

やる気を出すための工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・目標をたてる。 ・けじめをつける。やる時はやる、やらない時はやらない。 ・野球部の練習を記録してそれを思い出してやっている。 ・ご飯を食べる。 ・日記に一日のことを書いている。 ・負けず嫌いになる。 ・一生懸命やる。

- ・楽しいことを想像する。
- ・絶対できると思う。自分にもできると思う。
- ・やる気をなくす言葉は聞かないようにする。
- ・楽しくやるようにしている。
- ・くじけたら自分に「あきらめるな！何でがんばっているの？」と言う。
- ・仲間を作ろうとする。
- ・毎日練習する（母がほめてくれるから）。

※子どもによってやる気の起こり方は様々だが、興味関心を持った時、できる喜びを感じた時、目標の達成を図ろうとした時など内からの意欲をあげている子どもが多い。
 ※子どもたちはやる気を出すために、目標をたてる、自分で自分を励ます、記録をとるなどの工夫をしていることがわかった。

② 意欲につながるほめ方

子どもはほめられるとやる気を起こし、生き生きとし、心が安定するという。このようなほめ方に大切なことは、テクニックより、教師が心から感動できること、その気持ちを素直に表せることである。

留意することは、ほめることを子どもを教師の思惑通りに操作するための手段としないことである。「ほめる」ことは「おだてる」ことや「おもねる」こととは違うのである。

<ほめるときのポイント>

- ・子どもの気持ちを知るよう心がけること。
- ・結果のみならず、努力の過程をよく見ること。
- ・タイミングを逃さないこと。またはその後、ほめる場や機会をもうけること。
- ・表情豊かにほめること。

(4) 児童理解

学級経営は児童理解にはじまるといわれている。一人一人の子どもをより深く理解できるよう、日々努めなければならない。

- ① カウンセリングマインドを身に付けること
 - ・先入観を持たずに子どもに接する姿勢。
 - ・子どもの言動を無条件に受け入れる姿勢。
 - ・子どもの言動を共感を持って理解しようとする姿勢。
- ② 子どもが「見える」力をつけること。
 - ・子どもの努力や変化を見逃さず、心か

らほめたり、励ましたりすることのできる力をつける。また行動の裏にある思いに気づく教師でありたい。

- ③ 子どもに学ぶ、子どもと共に成長する姿勢を忘れないこと。
- ・ 教師は教える者であると同時に学ぶ者でもある。上から教えようという態度ではなく、子どもから学ぶ姿勢を忘れてはいけない。教師自身の内面的な成長・人間的な成長をめざし、努力することが大切である。

(5) 聴く力と心の関係

① 「聞く」と「聴く」の違い

- ・ 「聞く」・・・しぜんに耳に聞こえてくる音声を耳に感じるという意味。
- ・ 「聴く」・・・意思を持って念入りに聞くという意味。意識的・集中的に聞くこと。

② 「聴く」ことの意義

聴く力は素直さを育て、よりよい人間関係をつくり、知性を磨くと考える。聴くことの意義について文献よりいくつか挙げてみる。

- ・ 聞くことの機能を考えてみると、その根底は人間づくりということである。聞くことは話す活動に比べると、受け身のはたらきのように考えられるが、自主的・積極的・主体的なはたらきであるはずだ。(9)
- ・ 聴くことは理解力を育て、話す力をつける。(H13 宜野湾市学級経営研修会資料より)
- ・ 聴くことは他者を価値ある存在として認め、他者や他者の語りに心を開いた者となることです。聴くことは、他者の視点を正當に認め、聴き手と話し手の両者を豊かにします。(10)
- ・ 聴くことで言葉の世界が広がり、想像力が育つ。目と目、顔と顔を見合

わせて聴くことで本当の聴く力がつく。(11)

- ・ 「聞く」ことの指導を満足に行っていない学級は、どうしてもおしゃべりが多く、授業にしまりが無い。また落ち着きのない子が増えてくる。

このことから目に見えない言葉を聴く力が、学習面の育ちのみならず、心の教育につながると考える。

3 語り聞かせについて

(1) 語り聞かせの意義

- ・ 顔を見合わせながら、言葉を肉声で聴くことにより、じっくりと集中して聴く力が育つ。
 - ・ 子どもの内に持つ気持ちや力に気づかせたり、広げたりすることができる。
- できるだけ心をこめて、さらっと語り、はっと気づかせることが肝要です。わからせるのではなく、感じて「気づかせる」体験が今の子どもの育ちには欠けています。

(松居直・NHK人間講座 2002.12)

(2) 語り聞かせとは(先行研究より)

語り聞かせとは、聴く力を育てるとともに、子どもの気づきや内面からのよりよい変容をねらい、教師の思いや願いを込めて、教育の目指している方向などを語り聞かせる方法である。

先行研究(12)より、語り聞かせのポイントを書き出してみる。

- ① 語り聞かせで人間づくりの根底である聴く力と内面からのやる気を育てる。
- ・ 聴く力は理解力・話す力・やる気・思いやりを育てる。自分自身を成長させる喜びになる。
- ・ やる気は学級内の人間関係をよくし、学級経営を充実させる。やる気に支えられた学級経営はすべての教育活動をスムーズにする。
- ・ やる気は学ぶ喜びを与え、生涯学び続

(9) 石田佐久馬編『話し合い・聞きあい・学びあい』東洋館出版社 1992。

(10) C.エトワース/L.ガントニー/G.フォアマン編『子どもたちの100の言葉』世織書房 2001。

(11) 松居直『NHK人間講座「絵本のよるこび」』日本放送出版協会 2002.12~2003.1。

(12) 宜野湾市立教育研究所研究報告集録第2号。

ける意欲と豊かな心を育てる。

- ② 話題と話術の研究
- ・常に話材探しをする。
 - ・子どもの実感に根付いた話題，楽しく学べる話題を考える。
 - ・説教・おしつけ・脅迫・強要をしない。
- ③ 語り聞かせの年間計画をつくる。
- ・学校行事，生活目標，道徳，学級活動と関連付けて計画表を作成する。
- ④ 語り聞かせの時間を設定する。
- ・週に一度はよい話の贈りものをする。
 - ・朝の自習時間，ゆとりの時間に週一度ずつ設定する。
- ⑤ 聴く→考える→書く活動を取り入れる
- ・週末に，話を聴いてわかったことを「一週間をふりかえって」として記録にまとめる。

(3) 語り聞かせとの出会い

平成13年7月，学級経営研修会において語り聞かせという手法を知った。ビデオの映像から信頼関係で結ばれた学級の様子や生き生きとした子どもたちの動きがよくうかがえた。語り聞かせを通して育った子どもたちの授業はまさに子ども主導であった。その時，子どもの力を発揮させられるかどうかは担任にかかっているという責任の重さを感じた。私は翌日から見よう見まねだが語り聞かせを取り入れてみた。すると話を聴く子ども達の表情がそれまでとは違い，明るく真剣だった。私は語り聞かせに手ごたえを感じ，その後も自分なりに実践を続けた。それからの学級は学級目標に向かって力を合わせて頑張り，「クラス替えをしたくない」という言葉が出るほど，充実した日々を送ることができた。

<昨年度の児童の作文>

○ 男も女も「しっかり聞き，はっきり言える子」，「仲良く助け合う子」「ねばり強くやりぬく子をめざしてがんばっています。「しっかりきき，はっきりいえる子」と「なかよくたすけあう子」は2がっきのあいだにほとんどできていて，あとは，ねばりよくやりぬく子がまだたっせいしていないので5年生になるころにしあげたいです。

す。

○ 私は2学期ぐらいになってから，そうじの時間にほとんどの人が他のグループに手伝いに行き，それが今でも続いていることがすごいと思いました。それに学級目標の「仲良く助け合う子」に入っているからすごいと思いました。これからも続けて他のグループの手伝いをがんばれるといいです。(原文のまま)

<学級で見られた改善点>

<事例1>グループ活動

4月から7月前半の様子	語り聞かせを始めた後の様子
グループ活動の時間，子どもたちは周りを気にせず，おしゃべりをしながら活動することが多かった。当然作業は遅れがちになり，一時間のうちに何度も注意を受けていた。	周りに支障のない大きさの声で話すようになった。仕事を分け合いながら，活動することが多くなった。

*学年主任より「学級が落ち着いて，よい雰囲気になっている」との言葉を受けた。

<事例2>思いやり

4月から7月前半の様子	語り聞かせを始めた後の様子
特殊学級の男の子(兄弟学級)からのいたずらに仕返しをしたり，からかったりすることが多かった。	彼からのいたずらに対し，言葉でなだめるなど，落ち着いた温かい対処の仕方の子どもが増えた。

*専科から「授業中，彼への思いやりが見られる」との言葉を受けた。

<事例3>男児S

4月から7月前半の様子	語り聞かせを始めた後の様子
意見が合わないとき怒り，暴力をふるうことが何度かあった。学習用具や宿題を忘れることが多かった。	ほとんどけんかをしなくなった。暴力を振るうことは2度となかった。家庭学習をほとんど欠かさずやるようになった。

*母親から「学年の途中からとてもいいほうに変わってきて喜んでます」との言葉を受けた。

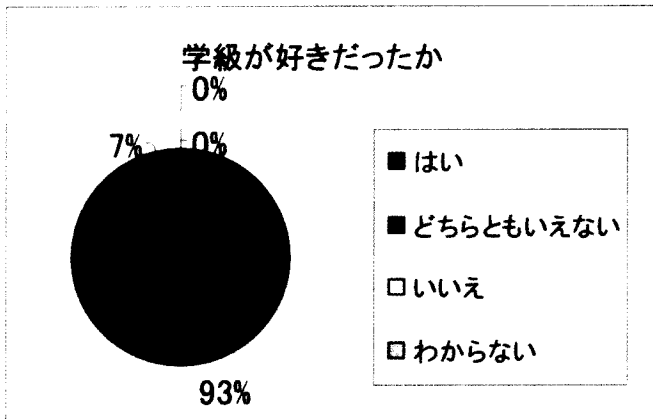


図2 調査③：学級に対する思い
(平成13年度受け持ちの子ども対象)

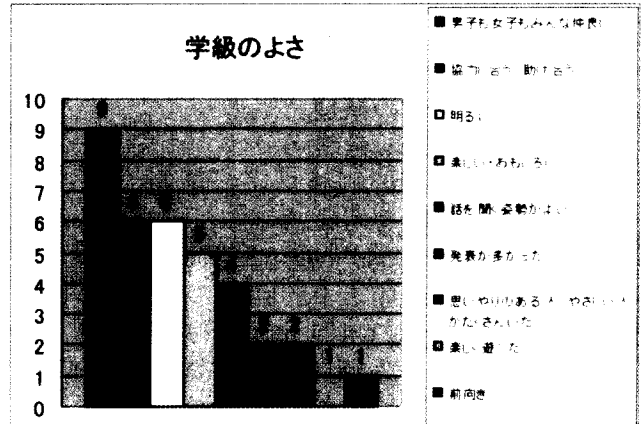


図3 調査④：学級のよかったと思う点
(平成13年度受け持ちの子ども対象)

(4) 語り聞かせの時間設定

	朝の自習・朝の会 (8:15~8:45)	帰りの会 (3:10~3:20)
月	朝の自習	帰りの会
火	学級活動 ◎お話を聞く ◎①月目標 ◎②語り聞かせ ③学年朝会 ◎④語り聞かせ	帰りの会
水	読書指導	帰りの会
木	読書・読み聞かせ	帰りの会
金	全校朝会 ①全校朝会 ②学級活動 ③表彰朝会 ④音楽朝会	ゆとりの時間 ①代表委員会 ②クラブ ③委員会 ◎④語り聞かせ

- ☆ ◎は語り聞かせの時間
 - ☆ ①~④は週を表す
 - ☆ ③は道徳または学級活動に語り聞かせを取り入れる。
- この時間設定は、あくまでもめやすである。児童の実態に応じて、タイミングを逃さず適宜語り聞かせを行うようにする。

4 これまでの語り聞かせの実践

(1) 実践事例

① 「心の階段」 平成14年6月21日
自然教室で野外炊飯や山登り、ナイトウォー

ラリーなどに取り組み、学級全体が自分達でやり遂げた満足感、助け合う雰囲気、満ちていた。大きな行事を終えた安堵感から力がぬけないよう、その後の生活においても協力し合いながら向上していけるよう願いを込めて語り聞かせた。

先生はみんなと一緒に心の階段を上っていきたいと思っています。先生の考える心の階段とは(1段目)素直に聴く心 (2段目)思いやりの心 (3段目)働く心 (4段目)努力する心 (5段目)ねばり強い心…です。
(ミツルの詩「カイダン」を読む)

山でも階段でものぼるのは大変です。疲れます。反対におりるのは楽です。簡単です。あつという間です。5年2組の詩「これから一年」の中の言葉「ひとりのこらず、ひとりの仲間もころげおとさず」のように誰か一人でも落ちそうになってしまったら、みんなで声をかけ合ひましょう。みんなであつあつ、助け合い、よさを見つけ合ひながら、一步一步心の階段を上って行けるといいですね。

<子どもの日記より>

○今日、この話を聞いて、私もみんなと一緒に「だんだん」とカイダンをのぼっていきたいなと思いました。そして、この階段を全部上りきったら、他の階段も上って行きたいです。階段で止まらないでもっと先を見ながらがんばりたいです。明日から、みんなと一緒に「すなお」「思いやり」「働く」「努力」「ねばり」の階段を上って目標を達成したいです。

○私は、左の心の木の実を来年の3月までに花にして、満開にして、先生に見せてから、5年

生を卒業して、6年生に進級したいです。そのためには、1つずつゆっくりと咲かせないといけないので、一時はできたけれど、後はできないと咲いた花をからすことにならないようにします。どうか、来年までに全部開花するように、努力します。（原文のまま）

② 「わたしと目標」 平成14年9月25日
（先行研究の話材のアレンジ）

長い夏休みを終えて新たなスタートきった子ども達にもう一度目標を持つことの意味を考えてほしいという思いと、身近にせまった運動会に向けて目標を持ってチャレンジしてほしいという願いを込めて語り聞かせた。

先生は次のことを心にとめてがんばっています。目標なき者は時として努力することを忘れる
（イチロー選手のインタビューの中の言葉を読む）

先生には目標にしている先生がいます。その先生を目標にして、自分なりに勉強しています。光り輝く宝石の原石であるみんなを磨く手助けをしたいと思って勉強しています。忙しくて思うようにできない時もあります。そんな時はみんなの日記のコピーを読んで元気をもらいます。（子どもの日記を読む）また教頭先生の言葉を思い出したりします。（教頭先生の言葉を紹介する）

自分に目標があると①頑張りやすくなります。②元気が出てきます。③生き生きした充実した毎日が遅れます。④悪いことも考えなくなります。だから楽しいのです。目標に向かってがんばる姿は美しい。たとえ衣服が汚れ、汗にまみれても、貧しくとも…。価値ある姿です。

<子どもの日記より>

(2) 語り聞かせの効果

① 語り聞かせと聴く力

「これから先生のお話をします」というと子ども達は姿勢を正し、私をしっかりと見つめる。調査④からもわかるように、お話を聞くことを楽しみにしている子どもが多かったようである。翌日の日記には、語り聞かせの感想や自分の考えを書いてくる子どもが増えた。話を聴くことの楽しさや大切さがわかり、聴く力がついたのではないかと考えている。

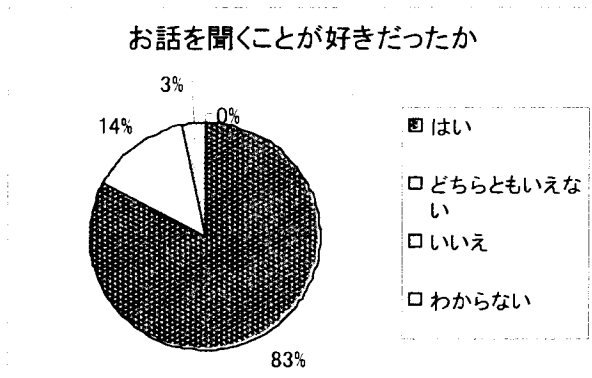


図4 調査⑤：話への子ども関心度

② 教師の変容

初めて語り聞かせをした時の子どもたちの驚きと期待に微笑む表情が忘れられない。語り聞かせを始める前の私は、指示・命令が多く、厳しく叱ることもよくあった。しかし語り聞かせは、説教・おしつけ・脅迫・強要では成り立たないため、語り聞かせの後にはできるだけ指示や命令をせず、子ども達の行動を見守るようにした。変容がみられない場合もすぐ叱ったりせず、待つことを心がけた。反対によい行動をしている子どもを見つけることに力を入れ、ほめたり、学級の皆に紹介したりするようにした。すると叱らずとも他の子どもも良い行動をするようになることが多かった。また、語り聞かせをするようになってから、自分自身のことについても子どもたちに語ることが多くなり、子どもたちに相談したり、意見を聞いたりする機会も増えてきた。子どもに聴く力を育てると共に教師も子どもから聴く姿勢になりつつあると思う。

このように語り聞かせを通して、教師の子どもへの接し方が変わったことが子どもとの信頼関係づくりに大きく影響しているのではないかと考えている。

(3) これまでの課題

語り聞かせを続けるうち、子どもたちの変容が持続しないという課題にぶつかった。これまでの語り聞かせの実践や子どもたちへのアンケート、子どもの言葉を手がかりに原因を分析してみた。

① これまでの語り聞かせから

これまでの語り聞かせの中から、その後実行している子どもが多い例と実行しなくなった子どもが多い例とを比べながらそのわけを考える。

表4 <これまでの語り聞かせの分析>

	実行している子どもが多い例	実行しなくなった子どもが多い例
語り聞かせの内容	<p>「耳が二つに口一つ」(平成14年4月8日) (H13 宜野湾市学級経営研修会資料より)</p> <p>人間にはなぜ一つの口と二つの耳があるのでしょうか。口が一つに耳二つというのは、自分が何か一つ言ったら、人の話は二倍聞きなさいという意味だそうよ。ところが一つ聞いたら三つ話すという人の方が多いのです。こうした人間の性質を利用してお金もらって人の話をじっくり聞いてあげる職業もあるそうです。お金を払ってでも話を聞いてほしいのですから、ただで話を聞いてあげたら相手にどんなにか喜ばれ、好かれるかわかりませんね。</p> <p>話を聞くというプラス面は、相手に喜ばれることだけでなく、まだまだたくさんあります。</p> <p>人の話をよく聞いてこそ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知らなかったことを覚え、知識も増えて賢くなるのではないのでしょうか。 ・ 「話を聞いてあげるのは功德だよ」 <p>※聞き上手は話し上手になる。</p> <p>私達が成長するためには体験することが望ましいが、できなかつたらせめて聞くことをしなければ…</p> <p>「聞くということは成長するための最低の条件」と古くから言われています。</p> <p>人に喜ばれて、自分も賢くなる</p> <p>こんなよいことはありませんね。これを「一石二鳥」というのです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人に好かれるためにも ・ 自分が成長するためにも ・ 仕事に成功するためにも <p>まず人の話を聞くことです。素直な心で聞くことです。</p>	<p>「心を磨く」(平成14年5月20日)</p> <p>そうじをしていて、心が磨かれたようだと感じたことのある人はいますか？</p> <p>心が磨かれるとは、心または自分がどうなることでしょうか。(児童の日記を読む、子どもの意見を聞く) そうじをすると心の中にある三つの石が磨かれるそうです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 粘りの石…「汚れがおちにくいけどあきらめずに落とそう」「疲れてもがんばるぞ」 ・ 発見の石…「人がやっていないところを探そう」「こうやれば汚れが落ちるんだ」 ・ 親切の石…「使う人のことを考えてきれいにしよう」「気分の悪い人は休ませよう」「まだ終わっていないそうじを手伝いに行こう」 <p>人間は他の動物と大きな違いがあります。言葉、がまん、自発性…それは脳が発達しているからです。がまんしたり、進んでやろうとする心の働きは脳の発達した人間だからこそ、沸きあがってくるのだそうです。しかし、たとえ人間でも心は使わなければ育ちません。心は使うから磨かれるのです。使う人のためにもなって、自分の心も磨かれる。そんなそうじの仕方ができるとよいですね。</p> <p><漢那先生からのアドバイス(授業後)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃を思い浮かべるようなタイトルの工夫をするとよい。例「そうじは心のあかを落とすように」など。 ・ 説明不足で子どもに通じていないこともあるので子どもに分かりやすいように具体的に話すとうい。
その後の様子	<p>○ほとんどの子どもが教師を見て、聴くようになっており、継続している。</p> <p>○うなずくなど反応しながら聴く子どもが増えている。</p> <p>○語り聞かせの内容をメモする子どもが増えている。</p> <p>▲担任の話は担任を見ながらしっかり聴くが、他の人の話は聞けないときがある。</p> <p>▲話す人を見ながら静かに聞いているが、内容が理解できていないことがある。</p>	<p>○しばらくの間、気づきにくい棚の上や本棚のすきまなどを進んで掃除する子が増えた。</p> <p>○しばらくの間、自分の掃除が終わると他の分担区に進んで手伝いに行く子が増えた。</p> <p>○1学期の間、台風対策などの大変な仕事も意欲的に取り組み、自分で仕事を探すようになった。</p> <p>▲1～2ヶ月たつとだんだん元の状態にもどってしまう子どもが増えた。</p> <p>▲頼まれた仕事は快くやるが、自分から気づいたり、仕事を探したりする姿は減った。</p>

分析 (予想)	良かったわけ	<ul style="list-style-type: none"> 「聴くこと」については、語り聞かせの時間のみならず、朝会、朝の会、帰りの会、各教科等を通して指導をしてきた。語り聞かせ以外にも集中法、呼吸法などを取り入れてきたからではないか。 「耳が二つに口一つ」以外にも継続的に毎月一度は「聴くこと」に関する語り聞かせをしてきたからではないか。 「聴くこと」の語り聞かせは、ほとんどが先行研究の話材を参考にしたものだったため、話題のよさが関係しているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を素直に受け止め、すぐ実行に移す子どもが多いからではないか。 よい行動をした子どもをほめて、みんなに紹介していたからではないか。 自然教室があり、協力し合う雰囲気できていたからではないか。
	うまくいかなかったわけ	<ul style="list-style-type: none"> 担任の目を気にしている様子が見られるということは、内面からの変容になっていない子がいたようだ。 聴きっぱなしになることが多く、考えながら聴くところまで深まっていなかったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 気づかないうちに説得、強要になっていたのではないか。 掃除の反省を毎日ノートに書き、提出させていたことが管理的だったためか、内面からの変容につながらなかったのかもしれない。または努力に対するねぎらい、個々への手立てに欠けていたからかもしれない。 ほめかたがワンパターンで子どもがほめられることに満足感を得られないのかもしれない。また、ほめられなくてもできる子を目指したい。

② 子どもの言葉から

～これまでの行動の変容と語り聞かせとの関係について～

<事例1> 台風対策

5年生の子ども達は4月から7月にかけて一人一人自分のプランターで稲の栽培をしていた。その間、台風が3度近づき、プランターを50mほど離れた室内に移動させ、台風が去ったらもとに戻すという作業をした。その時、自分のプランター以外もつぎつぎと運ぶ姿、運ばれたプランターに水をやる姿、泥で汚れた廊下を雑巾でふく姿など、全員で働く姿を目にした。

進級当初、同じような作業をしたことがあったが、進んで働いたのは一部の子どもだけであった。のんびりとおしゃべりをしながら作業する子ども達、土の出された軽いプランターだけを運ぶ子ども達の姿が目立っており、作業は時間内に終わることができなかった。

私はこの働きぶりの変容は上記の「心を磨く」などの語り聞かせをしたことと関係がある

のではないかと考えたが、それについて子どもたちはどう思っているのかをたずねてみた。

表5 語り聞かせが関係していると答えた子どもの理由と影響を受けた語り聞かせの話題

話題	理由
「心を磨く」	心をみがくチャンスかなあと思ったから。
「思いやり」	その日休んでいる人の分を持って行ったりしていたから。
「思いやり」	思いやりがないと自分の教室の前でもないところをそうじしないと思う。
「プラス思考・マイナス思考」	プラス思考で相手のよいことをまねしたりするから。
「プラス思考・マイナス思考」	マイナス思考の場合はなまけていると思うから。

<自分の行動と語り聞かせとの関係について
の話し合いの中での子どもの言葉>

- ・ 先生のお話（語り聞かせ）と普段の朝の会や帰りの会での言葉がミックスされて、やろうと思う。
- ・ 心から語り聞かせのおかげで自分は変わったと思う。
- ・ 先生がお話しするってことは、「こうなってほしいな」という願いがこもっていると思うから、その話をした先生が見ていたら、「あっやろう」と思ってしまう。
- ・ 先生の話のうち、5～6個は疑っているものがある。
- ・ 先生の話の聴いて、「本当かな？」と思うから、確かめるためにやってみる。
- ・ Mさん（特殊学級女兒）へのやさしさと語り聞かせは関係があると思うけど、人はもともと思いやりを持っていると思う。

*子どもによって、聴いた話の受け止め方や行動の起こり方に違いがあることがわかった。また、話を聴くことは、子どもがもともと持っている気持ちや力を今までと違う場面でも発揮しようとするきっかけに成り得ると感じた。

○5～6個疑っているものがあると話した子どもに、どの話をたずねてみた。

- ・「プラス思考・マイナス思考」
…人の話やよい行いを素直に受け止め、まねしようとする心が成長の鍵です。
- ・『『聞く』と『聴く』の違い』
…「聞く」は耳で聞くこと、「聴く」は14の耳で聞くこと、心から聞くことです。
- ・「心を磨く」
…掃除をすると心の中にある発見の石、親切の石、粘りの石が磨かれるそうです。
- ・「聴くことの大切さ」
…聞く力はやる気を育て、自分を成長させる喜びを感じさせます。
- ・「集中」
…集中力が一位になりたいという願いをかなえてくれたという担任の体験談。

*事実が確認できない話題、時間に余裕がない時に話した話題は聴く楽しさを味わわせることができず、疑いを持たせることがあるとわかった。語り聞かせの内容と共に話し方が重要であることが再確認できた。

(4) 行動が持続しないわけ

子どもたちに台風対策の時のような働きぶりが継続していると思うかをたずねたところ、

以下のような答えであった。

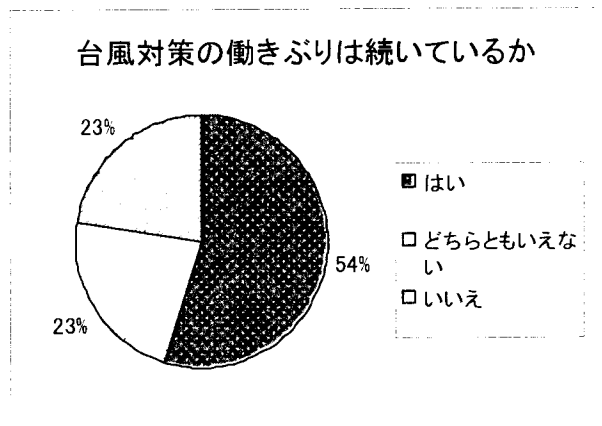


図5 調査⑥：働きぶりが続いているか

これまでの分析から、語り聞かせが聴く力を育てるのに有効であること、語り聞かせを通して何か気づき、行動に移す子どもが多いことがわかった。また、一時間の語り聞かせの良し悪しが、子どもの変容に関係していると思っていたが、児童の中にいくつかの語り聞かせが入り混じって印象に残っていることや日々の教師の言葉や接し方が影響しているようだということがわかった。しかし、その態度が持続しない、つまり内面からの変容につながらないのはなぜかを考えてみる。

<予想①>語り聞かせが子ども自身と重なっていないのではないかと。

- ・ 話題の問題。(実態に即していない、興味関心が喚起されない、遠い絵空事)
- ・ 話し方の問題。(情意にうたえられない)
- ・ 自分を振り返る場面がない。(時間がたつと忘れる)

<予想②>教師のかかわりが足りないのではないかと。

- ・ 一時間のすばらしい語り聞かせで子どもは変容すると思っていた。
- ・ 行動が持続するような手立てが必要となる

<予想③>児童理解が足りないのではないかと。

- ・ 個性ある一人一人の子どもが語り聞かせによってどんな考えを持ったのか理解することが必要となる。
- ・ 一人一人にあった助言やねぎらいをする

必要がある。

(5) 今後の改善点

① 語り聞かせの技術

ア) 話題

子どもたちが聴きたいと思うような実感に根付いた話題、納得できる話題、印象的な話題の工夫、説得・強要にならないような話題にする。子ども達の現実とかけ離れた話題では「よい話だった」で終わってしまい、自分と結び付けて考えることが難しい。

<話題選び・話題づくりの工夫>

- ・ 著名人（児童が身近に感じる人物・先輩など）の実践や言葉、教師の体験、学級の児童の努力などの事実を取り入れ、印象的に終わる。
- ・ 本の中の言葉やことわざなどを取り入れる。
- ・ 現実とかけ離れた雲の上の話でも簡単な話でもよくない。（意欲が最も高まるのは、成功・失敗の確率が半々の時）

イ) 話し方

学級全体に何となく話すのではなく、一人一人の表情を確認しながら話すこと、情意に触れる話し方を身につけることが大切となる。（命令や指示による変容は持続しない）

<コミュニケーションの3要素>

顔の表情 ・ 声の調子 ・ 言葉

<情意に触れる話し方の工夫>

- ・ 肉声で話す
小声のほうが集中度が高い。大きすぎる声は聴く人を疲れさせ、じっくり聴くことがしにくい。
- ・ 表情豊かに話す
話し方とともに表情もまた聞き手に説得力を持つ。
- ・ 情意に触れて変わらない子はいないと信じて話す
できるだけ心をこめて話す。ただし、教え込んだり、くどくど解説したりせず、さらっと気づかせるように話す。
- ・ 文脈を整えて話す

のんびんだらりとした単調な話は理解しにくいのでセンテンスは短めにし、間の取り方を工夫する。例えば具体的な例を示しながら、わかりやすく話す。

<子どもの心に残る「よい話」とは>

飯田 稔⁽¹³⁾

- ・ わかりやすい話
（子どもの直面している問題や発達に合致した内容）
- ・ 初めて知った話
（何度も聞いて聞き飽きた話ではなく、新鮮さのある内容）
- ・ 判断や行動の支えとなる話
（どう判断し、行動するか、納得・得心できる内容）
- ・ 興味や知識欲を充足する話
（「知りたい」「どうしてか」と思っていることに応えた内容）
- ・ 未知のことを知った喜びのある話
（内容が広がって自分が高まったと感じられる内容）
- ・ 方法や対処の仕方の分かる話
（どうしたらいいのかをわかりやすく示した内容）

② 語り聞かせとともに大切なこと

児童が継続的に取り組めるような工夫や教師のかかわりが必要だと気づいた。そのようなかかわりをするためには一人一人の行動をよく見て、その行動の裏にある思いに気づくことができるよう心がけることが大切となる。

ア) 児童理解に努める

- ・ 個票を作成する。
- ・ 子どもの行動の背景を考えるよう心がける。

イ) 長い目で見る

- ・ 語り聞かせは聴く力を育て、気づきかけをつくるのである。日々の生活の中での継続的な取り組み、個への支援をし

(13) 飯田稔『朝と帰りの会に生きる担任教師の例話集』明治図書 1988。

ていくようにする。

- ・ 子ども達は螺旋を描きながら成長していくということを頭に入れる。つまずきや成長を見逃さないようにできるだけ児童と共に行動するよう心がける。そしてタイミングを逃さず、努力をねぎらったり、励ましたり、ほめたりするよう心がける。

ウ) 子どもが自分を振り返る場面をつくる
＜書くこと＞

- ・ 書く活動を取り入れ、話を聞きっぱなしにしないようにする。それにより、自らを振り返る場面をつくる。
- ・ その後の取り組みを記録し、自分の努力の足跡が確認できるようにする期間を設定する。教師が子どもを管理することが目的ではない。記録に表れる一人一人の努力に対するコメントは、個への手立ての一つとなる。

＜話し合うこと＞

- ・ 語り聞かせによる気づきについて、学級で話し合うことにより、今の自分と照らし合わせて考えることができるようにする。また友達同士考えを聴き合うことを通して、聴く力と受容的な人間関係を育てる。

VI 授業実践

道徳学習指導案

平成 15 年 2 月 20 日(木) 5 校時
普 天 間 小 学 校 5 年 2 組
男子 18 名 女子 14 名 計 32 名
授 業 者 稲 福 景 子

- 1 主題名 プラス思考マイナス思考
中心価値 (明朗・誠実 1-(4))
関連価値 (理想・努力 1-(2))
(寛容・謙虚 2-(4))

2 ねらい

物事を肯定的にとらえ、明るく誠実に生活しようとする態度を育てる。

3 主題設定の理由

明るく誠実に生活するためには、前向きな態度であることが求められる。人の話、人の行為、自分の置かれた状況など、物事を肯定的にとらえるか否定的にとらえるか、つまり良い方考えるか悪い方考えるか、プラス思考をするかマイナス思考をするかによって態度が変わってくるものである。つまり前向きな態度はプラス思考から始まるのではないかと考える。子どもたちが学校生活の大半を過ごす学級は、友達とかかわり合いながら、また友達の行動や立ち居振る舞いを見て多くを学び合うことのできる場だと考える。友達のよさを肯定的にとらえることにより人間関係をよくするし、友達のよさを自分に取り入れようとする事により自らの成長も期待できる。例えば、友達が気づきにくい箇所をそうじして先生にほめられたとする。その時、「〇〇君はえらいな。僕も明日から汚れているところを探しながら掃除をしよう」と肯定的に受け取るか「〇〇君はカッコつけているだけだ。僕にはできない」と否定的に受け取るかによって自らの掃除のしかたに差が出てくるだろう。また肯定的思考の働く学級においては、認め合う人間関係が確立し、共に悪いところを直し合い、高め合っていくことも可能となるであろう。

高学年の子ども達の発達段階として、仲間意識が力を持つ傾向にある。時には、あやまった仲間意識が生まれ、仲間との関係を重要視するあまり、悪いことでも「やめよう」と言えず、同調してしまうケースさえ見られる。反対に仲間以外の他人から口うるさく干渉されたり、命令や強制されることを嫌い、例え他人の言うことが正論だとしても反発することがある。成長過程として、このような時期を経過することも意味のあることかもしれないが、気持ちの持ち方を少し変えることができれば、態度も、生活の仕方も、人間関係もよりよいものへと変わっていくのではないかと考える。

そこで、まずプラス思考・マイナス思考について語り聞かせることにより、肯定的思考のよさに気づかせたい。

しかし「こうすることがよいことだ」と分かっても、行動に移せない子どももいる。子どもにかぎらず、人間とは少なからずそういう面を持っているものであろう。物事を肯定的にとら

えるか、否定的にとらえるかを決めるのは自分自身である。自らの経験や理想、語り聞かせなどをもとに自分自身でそうすることがよいのだと納得した場合、肯定的なとらえかたへと努力する方向へ向かうことができるであろう。

そこで、次に物事を肯定的にとらえ、明るく誠実に生活していくためにはどうすればよいのかを話し合いたい。その中で友達の考えから気づいたり、友達の考えに触発されたりしながら自分自身で考え、自分が今できるやり方を見つけ出し、実践へと結びつくのではないかと考えた。

事前調査の結果、子どもたちはプラス思考・マイナス思考について次のように捉えているとわかった。

<子どもの考えるプラス思考>

- ・誰かがいいことをしたらまねしようと思う
- ・人のいいところを見つける
- ・自分に自信を持つ
- ・人のことを考える
- ・あの人ができるんだったら自分にもできると思う
- ・前向き
- ・人に優しくすること、思いやり

<子どもの考えるマイナス思考>

- ・自分にはできないと思う
- ・人の悪いところを見つける
- ・人に対して「いばるなよ、自分のほうがもっとすごい」とか思う
- ・自分のことだけを考える
- ・後ろ向き、自分には関係ないと思う
- ・文句ばかり言う
- ・素直じゃない

4 これまでの経過

(1) 平成14年4月12日(金) 語り聞かせ
「プラス思考・マイナス思考」

(H13 宜野湾市学級経営研修会資料より)

みなさん、お話を聞くのが上手になりましたね。もっとよくなるためには話の受け止め方が大切なのだそうよ。<～すれば〇〇みたいになれる・～の考え方をまねよう・気づかせてくれてありがとう>

こういう受け止め方をプラス思考といいます。プラス思考で話を受け止めると自分はどうなると思う？プラス思考の根底には何があると思う？(子どもからの意見を聞く)

目標を持つことの大切さ(を話す)

反対にマイナス思考になっちゃうのほどんない時ですか。(子どもからの意見を聞く)

マイナス思考は損する聞き方です。品性も悪くなるそうです。

マイナス思考、プラス思考どちらで聞いたほうがよいと思う？それを決めるのはあなたです。

<児童の感想①>

プラス思考は「人のをまねよう」「こうしたら〇〇さんのようになれるんだ」といいことをまねたりなどプラスの心を持つことで、いい子になれる。マイナス思考は「〇〇さんだからできるんだ。私にはムリ」などです。私はマイナス思考の心を持ちちゃダメだなあと思いました。私はプラスの心を持って頑張りたいと思います。(原文のまま)

* その後、学級ないでは前向きにがんばった様子が見られた。<日記・アンケートより>

- 今日、掃除時間に私のする掃除がおわったから外を見るとNとAとIちゃんがずっとそうじをしていたので私は外そうじをてつだいに行くとゴミばこなどがありました。いろいろな人がてつだっていたけど、まだまだいっぱいあります。だから、月曜日もてつだいに行つて、早く終わらせたいです。
- プラス思考じゃないと10問目だけ下に置いてあったのをみんなもんくいていたと思う。(原文のまま)

(2) 平成15年2月10日(月) 語り聞かせ
「プラス思考・マイナス思考2」

(担任の経験談をもとに)

自分はマイナス思考になることがあるという人はいませんか。先生もまだマイナス思考になることがあります。でも先生にはマイナス思考から抜け出してよかったと思う経験があるので、やっぱりプラス思考でいたいと思っています。先生は小学校6年生の頃、マイナス思考だった時期があります。自分の親友以外の人言葉や態度に「そんなことわかってるよ!」「いい子ぶるな!」などと腹を立ててばかりで、アドバイスなども受け入れませんでした。しかしある先生の「嫌いな人をつくらぬ努力をしよう」という言葉をきっかけにマイナス思考を抜け出すことができました。簡単ではなかったけれど、あの時変わることができたので、今先生をしていられると思います。

(イチロー選手のプラス思考に関する話をする)

人からの言葉もとらえ方によって自分に役立てることができるのです。

<児童の感想②>

○ 今日、ぼくは先生から、プラス思考・マイナス思考の話の話を聞きました。「聴くことができてもプラス思考じゃなかったら実行できない」ということがわかりました。イチロー選手は周りの人たちから「できないよ」と言われたことを全部やったそうです。ぼくだったら「絶対やってやる」じゃなくて「うるさい」と思ってできないと思います。ぼくがプラス思考になる時は外掃除をする時です。なぜかというと T 君が頑張っているのを見て、「よし、やるぞ」と思うからです。僕がマイナス思考になる時は、授業中にもあった（話し合いで出た）けど、自分をばかにした人が先生にほめられる時です。

○ 私は本当はプラス思考になりたいとは思っているけど、だいたいマイナス思考になってきています。そしてプラス思考&マイナス思考はどんな違いがあるかをべんきょうして、私はマイナス思考がこんなにひどいとわかりました。私はプラス思考になることをど力しているけれどそれがなかなかつづかなくて…だけど今日べんきょうして、絶対プラス思考になるためにどりよくしていきたいです。(原文のまま)

*これらの感想から、私の語り聞かせの技術の未熟さに加え、児童理解が弱いことに気づいた。これまで教師の願いをこめ、目指す方向

への気づきを与えようと語り聞かせてきたが、子どもがそれをどう受け止め、どう考えたのかを知ることが足りなかったように思われる。学級の中にプラス思考になろうと思いつながらなれない自分を責め、追い込んでいく子どもがいるとすれば、子どもを傷つけていることになる。また、本音が言えず、たてまえの感想を書かなければならないようでは、気づきが行動へと伴っていかないのは当然であろう。学級の中で子どもが本音を言い合い、それを認め合い、現在の自分の思いと友達の思いとを比べたり、ねり合わせたりしながら考えていく中で、実践の方法を見つけ出して欲しいと考えた。

5 本時の指導

(1) ねらい

物事を肯定的にとらえ、明るく誠実に生活するためにはどうすればよいか考える。

(2) 授業仮説

プラス思考でありたいと思いつながら、マイナス思考になってしまうという本音を受け入れる雰囲気話し合うことにより、自分の現実と照らし合わせて考えることができるであろう。

(3) 展開

過程	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	<ol style="list-style-type: none"> 「明るく誠実に生活する」とはどういうことか、考えてきたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> うそをつかない、笑顔で生活する、誰にでも分け隔てなく接する、はきはきとしている、まじめにがんばる、人にいじわるをしない、元気いっぱい、進んで手伝いをする、わからない そのような生活をしていると自分はどうなると思うか。また周りの人との人間関係はどうなると思うか出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 楽しい、勉強がよくわかるようになる、部活でレギュラーになれる、つかれる 友達がふえる、人から信頼される、友達からも手伝ってもらえる、やさしくされる、わからない 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考える「明るく誠実な生活」をとらえる。

	<p>3. 「明るく誠実に生活する」ためには、どうしたらよいかを考える。</p> <p>(1) それぞれの考えるプラス思考・マイナス思考を知る。</p> <p><プラス思考></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・誰かがいいことをしたらまねしようと思う、人のいいところを見つける、自分に自信を持つ、人のことを考える、あの人ができるんだったら自分にもできると思う、前向き、人に優しくすること、思いやり</p> </div> <p><マイナス思考></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・自分にはできないと思うこと、人の悪いところをみつける、人に対して「いばるなよ、自分のほうがもっとすごい」とか思うこと、自分のことだけを考える、後ろ向き、自分には関係ないと思う、文句ばかり言う、素直じゃない</p> </div> <p>(2) 現在の自分の考え方を確認する。</p> <p>○プラス思考でいたいと思いつつもマイナス思考になることがあるという子がいましたがみなさんはどうですか。</p> <p>・自分にもよくある、たまにある、ほとんどプラス思考、プラス思考にしようと思っていない、意識していない</p> <p>(3) プラス思考のよさを知っているがマイナス思考になるわけを考える。</p> <p>○なぜプラス思考がいいと思いつつも、マイナス思考になってしまうのでしょうか。</p> <p>・自然にマイナスになる、欲望に勝てない、すぐにあきらめた方が楽、すぐには直らないから、わからない</p> <p>(4) マイナス思考をプラス思考に変えることができるか考える。</p> <p>○プラス思考でいたいと思いつつもマイナス思考になってしまう。でもそれをプラス思考に変えることはできるのでしょうか。</p> <p>・できる、したことがある、できない、むずかしい</p> <p>○マイナス思考からプラス思考に変わる時、自分の中に何が起きているのでしょうか。</p> <p>・プラス思考で成功したことを思い出している、先生の話を出している、先生に叱られるかも知れないと思う、友達のアドバイスを受ける、自分の目標を思い出す、わからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達それぞれの考えるプラス思考・マイナス思考を確認することにより、自分とは違う角度からのとらえ方にも気づかせたい。 ・子どもの体験から、プラス思考の良さを導き出したい。 ・プラス思考でいたいと思いつつも簡単にできないのは自分だけでないことに気づかせ、安心させる。 ・必要に応じて教師の体験を話す。 ・プラス思考マイナス思考に関する語り聞かせを用意し、必要に応じて語る。 ・葛藤を乗り越えて判断するのは自分自身であることに気づかせたい。
<p>終末</p>	<p>4. 自分の思いを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に考えていたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを書くよう声かけをする。

(4) 評価

物事を肯定的にとらえ、明るく誠実に生活するためにはどうすればよいか考えることができたか。

Ⅶ 結果と考察

1 授業研究会の記録より (意見・指導助言)

- 指導案に固執しつつも、授業の中での子どもの実態に即し、その場の実態に即して、適切な洞察や吟味をしながら授業を進めていたので、プラスとマイナスの中間と言う真の子どもの声が出たのではないかと。
- プラス思考とマイナス思考の中間という状態にいる自分を見つめたとき、「語り聞かせ」がそれを上へあげる手段として有効となるのではないかと。
- 語り聞かせをすると学級の子どもの心がひらく、心をひらくことができるとうなずけた。
- 「『明るく誠実に生活する』ためには楽しいことばかりじゃ、だめ」と子どもが言ったところを問い詰めていくと深まったのではないかと。
- 「明朗・誠実」という価値に「プラス思考」という言葉を使ったために分かりにくかったのではないかと。
- 字面通りに語り聞かせた場合と言葉を解説しながら語り聞かせた場合とでは違う。
- 授業で変わらなければ、ほめることをしなければならぬ。個にかかわっていくのはここからである。

2 授業記録より

(T…教師 C…児童 CS…児童多数)

<その1>

T1 あなたにとって「明るく誠実に生活する」とはどういうことか考えましたか。

<～中 略～>

C1 おうちでみんな笑っていて楽しいこととかをいっぱいすること。

<～中 略～>

C2 アメリカとどこか、イラクが戦争するって、何かビクビクしてるっていうか、あれがなくて、楽しくられるのが「明るく誠実」かな。

<～中 略～>

C3 こんなとかあんまし楽しくなったら、仕事とかも…<中略>…自分の暮らしとかが苦しくなったり、もしかしたら、こんなおもしろい暮らしでも変なところにいっちゃうかも。

C4 楽しいことばかりやったら嫌いな勉強とか、仕事とかしなくなる。

C5 楽しいことばかりじゃ人間ダメになる。

C6 あのさ、楽しいこととかばかりだったらさ、友達のこと考えなくなる。

*緊張も加わって、発言が少なかったが、「楽しい」ことは明るく誠実な生活に関係があるが、「楽しいことばかりすること」ではないと考えているようである。

<その2>

C7 二つおかしがあるとして、その二つの一つが悪いこと、一つがいいこととして、その一つにもし悪いことをやろうかなと考えている時、悪いところに行こうかなと思ったり、いろんなことを迷っていて、そしてからついつい悪い所に行ってしまう。

T1 ああ、なるほどわかった？

CS1 (うなづく)

<～中 略～>

C8 先生、そんなことがあるから人間なんじゃないの？

*自分の考えを皆に伝えようと一生懸命話す努力が見られた。子どもの中に迷った経験があることがうかがえる。



<その3>

C9 んとね、ドロ持ってるときにドロ団子。人に当てようかなと思ってんだけど、当てないかなと思って、当てようかなと思って

C10 やっぱりあてる？

CS (笑)

C11 そしてから、投げて外れたりとかしたら、その人が怒ってから、もしかしたら遊ばなくなるかもしれないしな～とか考えたりしてやめる時もある。

T2 ああ、わかった。本当はプラスにしたい、だけど迷って迷って迷ってマイナスになっちゃう。

C12 ある。

T3 ということが出てきたよね。F君を中心に。今、C5君が言ってるのは反対だね。「よしドロ団子を投げてやれ。」「だけど、ああしたら、こうなるし」と考えて、「やっぱや～めた」って。

*プラス思考とマイナス思考が葛藤する場面について自分の経験から具体的に話している。聞いている児童も「うなづく」など賛同する様子を見せていた。



<その4>

C13 プラス思考とマイナス思考の真ん中ないの？

T4 どう、みんな。

C14 電池にプラスとマイナスってあるでしょ。真ん中ないでしょ。

C15 プラスマイナス思考。

CS2 (がやがやとそれについて話す)

T5 今さ、F君が迷うって言ったこと、プラスマイナス関係ないんじゃないのって言ったんだけど、プラスにもマイナスにも関係ないような中間のことってあるのかな。

<～中 略～>

C16 わかった。ドロ団子を投げたいんだけど、あたって人がかわいそうだから弱く投げる。

CS3 (笑)

<～中 略～>

- T 6 それ、あるかな。
C 17 先生、マイナス思考になるよ。
C 18 投げてんのに。
C 19 先生、それさ、マイナスのナスをとってマイ思考じゃない？
C 20 人のいない方に投げたらいいんじゃない？
C 21 ドロ団子ってつくのが嫌なんじゃないんですか。
C 22 いたってというのが問題じゃなくて、つくのがいやなんでしょ。
C 23 プラス思考とマイナス思考のプラスマイナスって電池と同じさ。電池にも真ん中何もないから、これもないと思う。
T 7 あなたはないと思う。
C 24 ないと思う。
T 8 Sさんはあると思う。
C 25 (うなずく)
C 26 ぼくもあると思う。
C 27 真ん中って感情がないってことじゃない？

<～中 略～>

- C 28 反対も考えた。とつても長い文があつて、みんな写してるんだけど、めんどくさいからやりたくないと思ってるわけ。でも本当はやらないといけないから、汚い字で書く。
C 29 汚い字で書くんじゃないで、早く書くんだろ。
C 30 めんどくさいから、ていねいにかかない。
T 9 そういうことがある。そういうことがある人？

CS 4 は～い (多数)

<～中 略～>

- T 10 今は先生の考えだから違うかもしれないんだけど、プラスにしないといけないんだけど、マイナスになっちゃう。だけどプラスにしたんだけどできないけどっていつて、でもマイナスまでは行かないで中間を何とか保とうと…ということ？

CS 5 …



* C 13 の「プラス思考とマイナス思考の真ん中ないの？」という素直な疑問が出たことによ

り、それぞれが考えを声に出し始めた。(CS 2)

* C 16 から出されたプラス思考・マイナス思考の中間の行為について、賛同や反対の意見が活発に出された。

* C 28 から出された中間の行為に対して、CS 4 からわかるように多数の児童が経験があると答えている。

* プラス思考になりたいと思うが、簡単にはなれず、迷っているということが発言となって表れていた。友達の迷う気持ちと自分とを重ねて考えている子どもが多かったように見受けられた。また、友達の考えを受け止めたり、それを受けて発言したりする様子から語り聞かせを通して育った聴く力が生かされていたように感じられた。考えを比べ合い、つなぎ合えるような話し合いを今後の課題にしたい。



3 子どもの感想より

<子どもの感想(本時)>

○ 私は「明るく誠実に生活する」ということは、みんな笑っていて楽しくすごしているけれど、けじめがある生活だと思う。

F 君と同じようにたのしくないことがあるから楽しいこともあるのだと思う。

私がとくにプラス思考にしようかマイナス思考にしようかまようときは、部活です。「部活を休んで遊びたいな」と思うマイナス思考と「でもやっぱり練習しないと」と思うプラス思考でどっちにしようかまよいます。

プラス思考にしようかマイナス思考にしようかどっちかまようときが、マイナスとプラスのあいだだと思います。プラスかマイナスか

どっちかきまったときが、ほんとうのマイナス思考、プラス思考だと思います。

- ぼくは、はっきり言ってあんましあわせと言ういみは、わかりません。
- それと、ぼくも、まだ、マイナス思考とプラス思考2つの道どこの道にいこうかまだ迷っています。
- でもぼくはこう思います。
- プラス思考がぜったいいいとゆうわけではありません。
- そう思います。
- 話はかわるけど、ぼくはみんなの心にかみさまがいると思います。
- 神さまだってみんな1人ずつみるのはむりだと思う だから心に1人に1ついると思います。
- (原文のまま)

*たてまえではなく、本音や実際の行動を表してきたようだ。

*「プラス思考がぜったいいいとゆうわけではありません」について考えをたずねると、「もし人が車にひかれそうになっていたとして、人のためとプラスに考えて、その人を助けたとしても、自分がひかれたら意味がない。人を助けることも大切だけど、自分にとってもよいことでなければならぬ。」と答えた。人にとっても自分にとっても良い方法を探すことが大切だというこの子どもなりの考えが出ている。

4 その後の指導

- (1) 「泥団子を弱くなげる」のではなく「泥団子を人に向けて投げない」ことがプラス思考マイナス思考の中間ではないかという考えが感想にあったことについて。
- ・弱くでも投げてしまえばマイナス思考だ。
 - ・中間はない。
 - ・中間にもレベルがあって、マイナスに近い中間とかプラスに近い中間とかがある。
 - ・中間とは迷うところだ。
 - ・プラスマイナスを決める基準が違うから中間の考え方も違うのではないか。

- ・基準は思いやり。
- ・基準は人のためを思うこと。
- ・基準はおこられないこと。
- ・基準は仕返しされないようにすること。

(2) アンケートに全員「プラス思考でいたい」と書いてあったことについて。

- ・できれば中間かプラスを選びたい。
- ・アンケートにはプラスでいたいと書いたが本当は自分には無理だとあきらめかけている。
- ・プラスになろうともマイナスになろうとも何も考えないでやっていることが多い。

(3) 語り聞かせ「プラス思考は健康にもよい」

<子どもの感想(その後の指導)>

○ 今日ぼくはプラスしこうマイナスしこうのことをべんきょうしました。プラスしこうとマイナスしこうの中間のものはないと思ったけど、いろいろな人のしつもんやえにあらわしたのを見て聞いていると中間は、あるか思いました。だけどまだあるのかないのかははっきりしていないからせんせいとべんきょうできなくても自分でかんがえたいです。

○ ぼくは授業中に手を挙げられなかったけど、S君と同じようにおもっているな…とおもいました。ときどきマイナス思考になるけど、プラス思考をめざして、そしてプラス思考にたどりつけるように(自分で言うのはなんだけど)努力しているんじゃないかなァと思います。どんなにマイナスしこうにおされても、それをつらぬいて、おいぬけプラス思考にいつでもなれるようにガンバリたいです。

(原文のまま)

*一つの決まった答えがあるわけではないが、自分なりに考え、追求しようとする様子がかがえた。

VIII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 語り聞かせが聴く力を育てることに有効であるとわかった。

- (2) 聴く力がつくと学級内の雰囲気が受容的になることがわかった。
- (3) 語り聞かせの後、話し合ったり、書いたりすることにより、現在の自分と照らし合わせながら少しずつ考えることができるようになってきたようだ。
- (4) 語り聞かせの年間計画を作成し、話材を集めることができた。

2 今後の課題

- (1) 児童理解の姿勢や方法
- (2) 子ども一人一人への支援の仕方
- (3) 語り聞かせの話題と話術の研究と実践
- (4) 感想や記録の書かせ方

3 終わりに

語り聞かせを通して育った子どもたちの映像を目にしたことから、私の研究は始まりました。

学級経営に最も大切なものは教師と子ども、子ども相互の心の通い合いなのではないかと思っています。そして聴き合うことにより、その道が見えてくるのではないかと考え、進めてきた研究でした。その一つの柱が語り聞かせです。

半年間という貴重な研修期間に学んだことを今後の実践に生かし、さらに研鑽を積みながら、学級経営の充実に努めていきたいと思えます。

この研究を進めるにあたり、漢那孝子先生にはご多忙な中、多大なるご協力をいただきました。漢那先生のご指導、ご助言なしには進めることができませんでした。心から感謝申し上げます。

また、これまでご指導を下さいました当研究所所長の宮城勇孝先生、研修係長の新垣英司先生、研修の機会を与えて下さいました普天間小学校の上原正敬校長をはじめ、検証授業にご協力下さった普天間小学校職員の皆様、そして、励まし、支えて下さいました当研究所職員の皆様、同期研究員の宮城隆子先生に深く感謝申し上げます。

<主な引用文献・参考文献>

- ・ 永岡順・奥田眞文【編】『学級・学年経営』ぎょうせい 1995。
- ・ 織井道雄『小学校学級担任必携』文教書院 1993。

- ・ 下村哲夫・天笠茂・成田國英『学級経営の基礎・基本』ぎょうせい 1994。
- ・ 高場昭次『新学級作り』ぎょうせい 1987。
- ・ 高橋宏『「心」とは何か 精神心理学からのアプローチ』講談社。
- ・ 稲川三郎『自己教育力を育てる指導の実際』黎明書房 1985。
- ・ 國分康孝【編代表】『児童生徒理解と教師の自己理解』図書文化社 1998。
- ・ 稲川三郎『自己教育力を育てる指導の実際』黎明書房 1985。
- ・ 北尾倫彦『自己教育力を育てる先生』図書文化社 1986。
- ・ 石田佐久馬【編】『話し合い・聞き合い・学び合い』東洋館出版社 1992。
- ・ 石田佐久馬【編】『聞ける子・話せる子を育てる』東洋館出版社 1992。
- ・ 荒木紀幸『道徳教育はこうすればおもしろい』北大路書房 1988。
- ・ 飯田稔【編】『朝と帰りの会に生きる担任教師の例話集』明治図書 1988。
- ・ 笠巻勝利『眼からウロコが落ちる本』PHP研究所 1986。
- ・ 『宜野湾市立教育研究所 研究報告集録』（第2号）1991。
- ・ 『学習指導要領解説道徳編』文部省 1999。

<資料> 語り聞かせの年間計画

月	4	5	6	7	9
行事	<ul style="list-style-type: none"> 1 学期始業式 ・ 入学式 家庭訪問 ・ 身体測定 	<ul style="list-style-type: none"> 一年生を迎える会 避難訓練 ・ 学級PTA 目の検査 ・ 内科検診 プール開き 	<ul style="list-style-type: none"> 自然教室 ・ 日曜参観 校内研究授業 	<ul style="list-style-type: none"> 介入授業 ・ 音楽朝会発表 学級懇談会 ・ 七夕集会 薬物乱用防止講習会 1 学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> 2 学期始業式 ・ 身体測定 陸上競技大会 ・ 運動会
生活目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎元氣よくあいさつをしましょう。 ○時間を守りましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ものを大切にしましょう。 ○元氣よくあいさつをしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎時間を守りましょう。 ○正しい姿勢で学習しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校をきれいにしましょう。 ○1学期のまとめをしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎元氣よくあいさつをしましょう。 ○時間を守りましょう。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 2-③友情 1-④誠実明朗 3-③敬けん 	<ul style="list-style-type: none"> 3-①自然愛 1-⑥個性伸長 2-④謙虚・寛容 4-②公德心・規則尊重 ・ 権利義務 	<ul style="list-style-type: none"> 4-①役割・責任 4-⑧国際理解・人類愛 4-③公正公平 	<ul style="list-style-type: none"> 3-①自然愛 2-②親切 	<ul style="list-style-type: none"> 2-①礼儀 4-⑧国際理解・人類愛 1-③自由規律 2-③友情
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 学級、個人の目標を決める 役員、係の決定と話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の正しい使い方 男女の体の変化と協力 自然教室への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 歯を大切にす 平和について考える 	<ul style="list-style-type: none"> お楽しみ会への取り組み 1 学期をふりかえって 夏休みの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> 2 学期の目標をたてる。 2 学期の役員と係を決める 運動会に向けての取り組み
語り聞かせの話題	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ① 心のスイッチ 目標について 4 月の生活目標について フラス思考、マイナス思考 思いやり ランドセルと親の思い 	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ② 5 月の生活目標について いじめをする心と脳のしくみ これから一年（学級の仲間） 自然教室のめあて 心を磨く清掃 	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ③ 6 月の生活目標について 大切なちとはじめ 目標の再チェック 人生の階段 努力とねばり 	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ④ 7 月の生活目標について 一分一秒 私はこう変わった 夏休みについて 	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ⑤ 9 月の生活目標について 心の土台 わたしたちと目標 集中

月	10	11	12	1	2	3
行事	<ul style="list-style-type: none"> 読書月間 研究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ありがとう集会 秋の遠足 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力検査 演劇鑑賞会 バザー 学級懇談会 2学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期始業式 書き初め会 身体測定 学芸会準備 	<ul style="list-style-type: none"> 学芸会 避難訓練 児童会選挙 委員会引継ぎ 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生を送る会 卒業式 終了式 離任式
生活目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎正しい姿勢で学習しましょう。 ○物を大切にしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎先生や友達の話をしつかり聞きましょう。 ○元氣よく外で遊びましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校をきれいにしましょう。 ○2学期のまとめをしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎元氣よくあいさつをしましょう。 ○物やお金を大切にしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎時間を守りましょう。 ○元氣よく外で遊びましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校をきれいにしましょう。 ○一年間のまとめをしましょう。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 1-①思慮・節制 3-②生命尊重 4-①役割・責任 4-⑦郷土愛・愛国心 	<ul style="list-style-type: none"> 3-③敬けん 2-④思慮寛容 2-⑤尊敬・感謝 4-⑤家庭愛 	<ul style="list-style-type: none"> 4-②公德心・規則尊重 1-⑤創意進取 	<ul style="list-style-type: none"> 1-②勇気・努力 4-③公正公平 3-②生命尊重 	<ul style="list-style-type: none"> 2-②親切 4-⑥愛校心 4-⑦郷土愛・愛国心 	<ul style="list-style-type: none"> 4-④勤労・奉仕 1-①思慮・節度 1-⑤創意進取
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 読書月間への取組み 家庭学習の仕方について 楽しい給食 	<ul style="list-style-type: none"> ありがとう集会の準備 奉仕活動 エイズについて知る 	<ul style="list-style-type: none"> お楽しみ会に向けて 2学期をふり返って 冬休みの過ごし方 	<ul style="list-style-type: none"> 新年の目標をたてる 3学期の役員と係を決める 学芸会への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会役員の選出 委員会活動への参加 6年生を送る会への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> お別れ会計画・実施 一年間をふり返って 春休みの過ごし方
語り聞かせの話題	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ⑥ 10月の生活目標について もう一人の自分に 本に囲まれ読書の秋 継続は力なり 	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ⑦ 11月の生活目標について 感謝の気持ち ボランティアについて レッドリボン 	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ⑧ 12月の生活目標について 下りのエスカレーターを上る 気転 規則正しい生活について 	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ⑨ 1月の生活目標について 新年のちかひ 来年とみんな あいさつは心をつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ⑩ 2月の生活目標について 時間は命のしずく きつとうまくいく 	<ul style="list-style-type: none"> 聴くことの大切さ⑪ 3月の生活目標について 清掃 夢に向かつて 一年をふり返る